

少年の主張

平成28年11月に開催された第36回基山町青少年健全育成町民大会で、小・中学生が発表された内容を紹介します。
(広報きやまの表記法に合わせて、原文の一部表記を変更しています。)

支え合う心で

東明館中学校3年 吉良 仁志

平成28年4月18日、熊本を襲った地震。あれから約半年がたとうとしています。

皆さんは、あの4月18日の揺れを覚えていますか。僕の家は熊本です。大地震があつた日は、基山町の寮に居て、僕は震度7を経験していません。地震直後にメールで送られてくる写真は、家の中がめちゃくちゃになっていました。本棚から本がたくさん、ほぼすべて落ちていました。僕は1日も早く熊本の家に帰りたいのですが、しばらく新幹線は運行中止で、僕は家に帰れません。胸が張り裂けそうに悔しくて、父や母のことが心配で心配でたまりません。ようやく僕が自宅に帰れたのは、地震から約1か月後のことです。
「お母さん、結構揺れているね」と僕。
「いつものことだよ」と母。
久しぶりに帰った家は、まる

で強盗に入られたかのようにぐちゃぐちゃで、片付けが待っていました。片付けても余震があるたびに崩れていくのです。僕の家だけでなく、僕の家のお店も被害を受けたのです。建物は崩れ落ち、店は営業どころではなくなっていました。地震直後、熊本の店はほぼすべて閉まっています。街全体が悲しい悲鳴をあげていました。僕は今の自分に何ができるだろうかと思ひ、中学3年の僕にもできることから始めようと決意しました。僕はボランティア活動を行いました。僕はボランティア活動で、日常最低限の物、例えば食料などを配給していました。店で欲しい物を買うことができない。そんなことが現実起こるなんて、僕は想像できませんでした。僕はそのお手伝いをしました。配給ではいろいろな人たちが物を買いにきます。街の人々は、時に疲れ果て、時には

笑顔で応えてくれるのです。笑顔から元気を貰うこともありました。ある日、僕は被害がひどかった家に行き、屋根についているれんがみたいな物を、一つ一つ回収している現場に行きました。粉々になった街、自然が残した大きな爪痕に僕の心も揺れました。

僕は佐賀県の学校に進学して、当たり前の毎日を送っています。しかし、この当たり前の生活がどんなにいとおしくて、大切なものなのか、熊本の震災を通して僕は強く強く感じます。当たり前ことは実は当たり前ではなく、この上なく尊いものだという。人間は、何か自分の身に降り掛かることが起きない限りは、「今」の生活がずっと続くと思っています。しかし、いつ何が起きるか

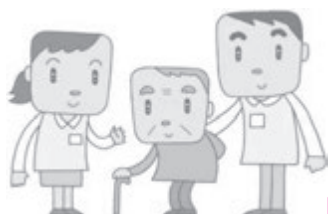
きることは、いっぱい勉強して、友達と汗を流しスポーツをして、健康に笑って中学校生活を送る事です。僕の将来の夢は、人のために社会のために貢献できる人になることです。
余震の数は減ってきたものの、まだまだ余震は続いています。先日は阿蘇山が噴火し、熊本の街はまた大変な思いをしています。自然災害があるからです。もし、自然がなかったら、自然災害は起こらないでしょう。しかし、自然がなかったら、動物や自然は生きていきません。だから自然は大切なものです。その一方で、自然は恐ろしいものなのです。自然を守っていくのか、壊していくのかは私たち次第なのです。

自然災害は、いつ自分の身に降り掛かるかわからないものです。皆さんは、避難経路を家族で話したりしていますか。防災グッズは用意していますか。懐中電灯は近くにありますか。近所の人に声掛けや挨拶をしますか。自然災害が起きたとき、人間はもろいものです。だからこそ、人とのつながりを大切にしていきたいです。

は誰にもわからないのです。僕は自分が住んでいる熊本の街が地震でぐちゃぐちゃになるなんて思っていなかったです。自然の力は、実に恐ろしいものです。熊本地震を経験してから、僕は考えるようになりました。僕は何かをしたい、何かをしなくてはいけない。今の僕には何ができるのでしょうか。今の僕に

は誰にもわからないのです。僕は自分が住んでいる熊本の街が地震でぐちゃぐちゃになるなんて思っていなかったです。自然の力は、実に恐ろしいものです。熊本地震を経験してから、僕は考えるようになりました。僕は何かをしたい、何かをしなくてはいけない。今の僕には何ができるのでしょうか。今の僕に

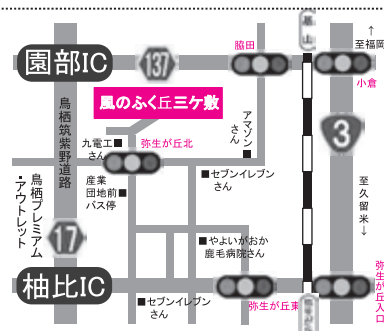
グループホーム 風のふく丘三ヶ敷



みどり豊かな基山町三ヶ敷の広い敷地に、ご利用しやすい料金設定で、皆様に温かい心で寄り添います。

基山町大字園部字三ヶ敷413-2
TEL 0942-72-1830
携帯 090-4519-3900

見学は随時受付中！お気軽にご相談ください。



有料広告

経験の大切さ、人の気持ちを考えるために

基山中学校2年 野中 くるみ

私は、困っている人や不安な気持ちの人の心を少しでも安心させたり、ほっとさせたりすることができるとなりたいです。

皆さんは、不安だったり、緊張したりしている人を安心させることができますか。人を心から応援することができますか。私は、とつても難しいことだと思っていました。しかし、今年の体育大会で貴重な経験をしました。

中学校では、クラス全員が走る「全員リレー」があります。私はその30番目を走りました。ある日、学年で練習中、私のところに1位でバトンがきました。後との差がないわけではありませんでした。しかし、走っている途中に抜かれてしまいました。抜かれた時、「クラスの人に文句を言われる。どうしよう」と思いました。差を広めてはいけないうと、前の人に一生懸命についていきました。でも、前の人は前に行くばかりで、全然追いつけませんでした。

その練習の後、走順を変えようという話になり、私のところも変えてほしいと思いました。先生が走順を変えたプリントを配られているとき、「変わってほしいな」と思いました。

手元に来て、真っ先に自分の走順を見ました。変わっていました。すごく残念でした。また、私のところで遅くなって文句を言われるのではと不安になり、嫌になりました。走ることも体育大会も…。

そんな嫌な気持ちのまま、当日、本番を迎えました。私が走る直前、私より後に走る人に声を掛けられました。「大丈夫」「俺たちがおるけん」という言葉でした。私の緊張していた気持ちや不安だった気持ちがほぐれました。心がすっと軽くなっていく感じがしました。改めて「一生懸命頑張つて走ろう」、そして、なぜか「大丈夫」と思えました。この時、初めて応援のすごさを知りました。走り終わった後は、本当にほっとしました。競技はまだ続いています。

私は、走っている人を精一杯応援しました。結果は2位でした。たつたのは数十秒のリレー、私が走ったのは数十秒です。最悪な30番目だったけど、いろいろなことが学べた最高の30番目になりました。

応援することって、相手に「頑張れ、頑張れ」と言うことだけじゃなくて、不安な人の気持ちをほっとさせたり、緊張している人の気持ちをほぐしたりすることなのかなと思いました。そんなことを自然にしていたクラスの人たちはすごいなと気付かされました。

そんな当たり前なこと、誰でもできると思う人がいるかも知れません。確かに、口で「頑張れ」と言うことは簡単です。しかし、それは相手の求めていることかどうかわかりません。相手はどうな気持ちかを考えるのは難しいことです。時や場合によっては、相手の表情や態度などからわかるかも知れません。しかし、自分の考えた相手の気持ちと相手の気持ちと同じかはわかりません。後で、「あの時どう思った？」と聞くことはあまりないでしょうし、テストのように、後で答えがわかるものでもあり

ません。

その上、人の気持ちは常に変わっていると思います。たぶん一日中、同じ気持ちの人はいないでしょう。少なくとも一日の中で少しでもうれしい、悔しい、悲しいなどと思うなら、同じ気持ちではありません。常に変わっている人の気持ちを常に考えることはできません。こんな風に常に人の気持ちばかり考えていたら、自分の心が疲れてしまうのではないかと思います。だから、加減というものが大事なのではないかと思えます。ずっと相手の気持ちを考えながら行動するのは無理だから、人と話すときに、ちょっと相手の気持ちを考えてみるのもいいと思います。例えば、相手が落ち込んで見えるように見えるときは相談に乗ったり、そのことにはふれないで明るい話や楽しい話をしたり、一言「大丈夫」と声を掛けたりと小さなことでもいいです。自分は小さな気遣いだと思っても、それを受けた人はとてもありがたく感じることは必ずあります。けれど、声を掛ける勇気は、そう簡単に沸くものではないと思います。それでは、声を掛けないままに終わ

りますか。そのとき声を掛けられなくても、チャンスはたくさんめぐってきます。でも、その時に不安な人の気持ちは、解消しないうままです。もし、自分がそうだったら悲しい気持ちになります。

では、どうすればそんな勇気をつけられるのか。私は経験を重ねることが大切だと思えます。傷つく、傷つけられる、喜ぶ、喜ばせる、元気づける、元気づけられる…。楽しいことだけでは、いろいろな経験をすることで相手の気持ちがわかって、相手を励ます声を掛けやすくなると思います。だから、私はいろんなことを教えてくれる経験を大切にしたいです。そして、たくさん経験をすることで、その経験を生かして、困っている人や不安な気持ちの人の心を少しでも安心させたり、ほっとさせたりできる人になり、これからはなっていこうと思います。